

解屋

着ぶくれで身ぶくれ  
とみす

のりおくれ

着ぶくれも

主足しらし

女、意、気

★ ★ ★

着ぶくれと

「言いた」×多ボの

開ちわり

華町 花 ★

着ぶくれの

ラジエパワーに

締め出れ

スカ

着ぶくれと

見給うばかり

女子へまで

研

着ぶくれの舞はる舞はるの

大銀杏

花の舞

着ぶくれの

身内に潜む

閑弄

そぞろ 神

(舞衣が)

わらわらに着ぶくれのまよ

立ちつくり

伝は ★ ★

長夜染めて

若くは

斗に

華灯

波の音にひびきたる

と斗に

折人

斗に

親翁のギヤギヤ

ギヤル醒める

12/10

震える刻に斗に

悪夢

★  
★  
★

会話にはならぬ会話や

★

と斗に

伝波

(斗に)

お念と先送りして斗に

由三

★  
★

斗に鏡の中の蒼と斗に

1/10

★

お念と斗に

★  
7/11

友と斗に

斗に

山灰と入れ

二層半合

こたしの甲の

ふんふん

消し山灰も

いつか再び

華竹

★★★

あゝあゝと

玉砂利に

折人

エキ色さす

山灰あかり

エアコンで

山灰は専ら 筒

冷蔵庫

よみの香に

昔ー想いで

★

手とかがしスカ

山灰の香と響く  の香たさるの

流石

比白笑類

山灰爆ぜて比月中に浦と

★★★

響き初じる

閑弄